

登録コード	L2740300	開講年度	2026				
担当教員	鈴木 裕也			副担当			
授業科目	日本語学発展演習Ⅲ						
英文授業名	Linguistics of Japanese: Advanced Seminar Ⅲ						
授業タイトル	日本古辞書の講読、調査						
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	人文第5講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】 自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			⇔	文献資料の本文に現れる日本語に疑問を持ち、基幹演習で発見した問題を考察する手法を修得することができるようになる。		
	【2022年度以前カリ対象】 情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			⇔	考察内容を論理的に分かりやすくまとめ、発表をする手法を身につけるとともに、他者の発表に対して質問や意見を述べることができるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】 人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	文献資料の本文に現れる日本語に疑問を持ち、基幹演習で発見した問題を考察する手法を修得することができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	本授業では、平安時代に編纂された古辞書である『類聚名義抄』（言部）を読む。前期の基幹演習で発見した疑問について考察する演習形式の授業である。担当者が発表資料を作成し、他の受講生と質疑をする。日本語を考察するための視点・方法を学ぶこと、考察内容を論理的に分かりやすく伝える手法を身につけることを目的とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス、担当順の決定 第2回 考察の構想発表（前半） 第3回 考察の構想発表（後半） 第4回 発表・討論（言、讀） 第5回 発表・討論（諫、議） 第6回 発表・討論（識、信） 第7回 発表・討論（詞、許） 第8回 発表・討論（設、訓） 第9回 発表・討論（試、詰） 第10回 発表・討論（話、課） 第11回 発表・討論（訛、註） 第12回 発表・討論（説、該） 第13回 発表・討論（謀、諺） 第14回 発表・討論（診、調） 第15回 発表・討論（誰、警）、授業アンケート 定期試験は行わない。						
成績評価の方法	口頭発表（80%）、各回の質疑応答への積極的な参加（20%）。日本語学の問題を設定し、適切な手法で考察できるかどうか、考察を分かりやすく発表できるかどうかを評価の基準とする。						
成績評価の基準	日本語学（辞書）の重要事項を最低限理解し表現できる水準への評価は「可（その水準にある）」 日本語学（辞書）の重要事項を正確に理解し表現できる水準への評価は「良（やや上にある）」 日本語学（辞書）の全体を理解し表現できる水準への評価は「優（かなり上にある）」 日本語学（辞書）の全体を理解し自主的な学習の成果が認められる水準への評価は「秀（卓越している）」 上記に至らないものは「不可」						
事前事後学習の内容	発表者は資料調査を充分に行い、発表までに資料を完成させること。発表の準備には一ヶ月程度の長い期間を要する。 発表者以外の者は、あらかじめ本文を読み、問題となる点をまとめてから授業に臨むこと。						
履修上の注意	漢和辞書を用いることが多いので、用意しておくこと（高等学校で用いていたものや電子辞書でよい）。演習であるから遅刻や無断欠席は厳禁である。やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。 「日本語学基幹演習Ⅲ」を受講済みであることが望ましい。						
質問、相談への対応	随時受け付けるが、口頭またはメールで事前に連絡すること。 メールアドレス yuyasuzuki@shinshu-u.ac.jp						
教科書	使用しない。授業内で資料を配布する。						

参考書	購入は必須ではない。 西崎亨（編）（1995）『日本古辞書を学ぶ人のために』（世界思想社） 沖森卓也（編）（2023）『図説日本の辞書100冊』（武蔵野書院） 大島正二（2011）『中国語の歴史』（大修館書店）
-----	--